

製品名: T2R50 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18576**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	TAS2R50
別名	
遺伝子 ID	259296.0
SwissProt ID	P59544
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 160~240

背景

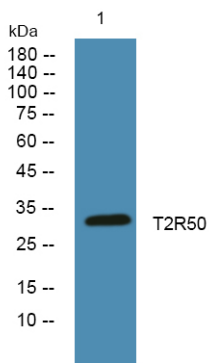
TAS2R50 は、大規模な TAS2R 受容体ファミリーに属します。TAS2R は味覚受容体細胞の表面に発現し、G タンパク質共役セカンドメッセンジャー経路を介して苦味の知覚を媒介します (Conte et al., 2002 [PubMed 12584440])。TAS2R10 (MIM 604791) も参

照してください。[OMIM 提供、2008 年 3 月],機能: 苦味の知覚に関与する可能性のある受容体で、ガストデューシンと関連しています。消化管内容物の化学組成を感知する役割を果たしている可能性があります。この受容体の活性は、 α ガストデューシンを刺激し、PLC- β -2 の活性化を媒介し、TRPM5 のゲーティングにつながる可能性があります。、その他: ほとんどの味覚細胞は、限られた数の苦味化合物によって活性化される可能性があります。個々の味覚細胞は苦味刺激を区別することができる。、類似性:G タンパク質共役受容体 T2R ファミリーに属する。、組織特異性:舌の味覚受容体細胞のサブセットで発現し、ガストデューシン陽性細胞でのみ発現する。、

研究分野

味覚伝達;

画像データ



PC12 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、T2R50 ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩